

メッセージアウトライン

コリント人への手紙 第一6:1～8 「なぜ訴え合うのか」

[1] 「あなたがたの中には、仲間の者と争いを起こしたとき、それを聖徒たちに訴えないで、あえて、正しくない人たちに訴え出るような人がいるのでしょうか」

この「仲間の者との争い」とは具体的には8節で言われている「不正を行う、だまし取る」という事件。しかも、その問題を聖徒たち、つまり同じクリスチャンに訴え、教会内で解決しようとしなくて神の前に正しくない人たち、すなわち未信者に訴え出ている。確かに絶対にこの世の裁判所に訴えてはならないということはない。→ローマ13:1、使徒25:11 しかし、事がクリスチャンの兄弟姉妹の間の問題であるならば、なによりもこれを教会内で解決するように努めなければならない。なぜならそれは神の道徳基準に従ってさばかれるべきであり、その処置は精神的、霊的な面にまで及ぶべきものだからである。

[2-4] 「あなたがたは、聖徒が世界をさばくようになることを知らないのですか。世界があなたがたによってさばかれるはずなのに、あなたがたは、ごく小さな事件さえもさばく力がないのですか。私たちは御使いをもさばくべき者だ、ということを知らないのですか。それならこの世のことは、言うまでもないではありませんか。それなのに、この世のことで争いが起こると、教会の内では無視される人たちを裁判官に選ぶのですか」

クリスチャンはやがて世の終わりの時にはキリストと共に世界をさばき治めるようになる。→マタイ19:28、25:21、黙示録2:26～27、3:21。そればかりか御使いをもさばくべき者である。→ガラテヤ1:8 教会はこのような権威が与えられている。さらに、聖書に示されている道徳的基準の高さ、神の前に聖とされ正しい関係にあるという特権。これらすべてはこの世の基準と比べるならばはるかにすばらしいものである。それなのに、どうしてこの世の日常の些細な事件さえも信者どうしで解決できないのかとパウロは言う。

[5-6] 「私はあなたがたをはずかしめるためにこう言っているのです。いったい、あなたがたの中には兄弟の間の争いを仲裁することのできるような賢い者がひとりもないのですか。それで、兄弟は兄弟を告訴し、しかもそれを不信者の前でするのですか」

これはパウロの痛烈な皮肉のことばである。

[7-8] 「そもそも、互いに訴え合うことが、すでにあなたがたの敗北です。なぜ、むしろ不正をも甘んじて受けないのですか。なぜ、むしろだまされていないのですか。ところが、それどころか、あなたがたは、不正を行う、だまし取る、しかもそのようなことを兄弟に対してしているのです」

教会員どうしの問題を教会外の裁判所に持ち込んで訴え合い、いがみ合う。このようにすること自体が敗北なのである。世の人々はその姿を見て、神を愛し、隣人を愛するというのはいったいどの宗教の話だとあざけるかもしれない。信仰者は神のみことばに従わなければならない。→Iテサロニケ5:15、Iペテロ2:19～21

泣き寝入りをするのではない。教会の中で正しい処理をするのである。主イエスが教えられた原則。→マタイ18:15～17 私たちは信仰者どうしでだまし合い、訴え合うのではなく、常に善を行い、神の栄光を現すことができるように生きなければならない。